

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0475400891
法人名	社会福祉法人 仙台ビーナス会
事業所名	中田高齢者グループホーム「ゆきあい」
所在地 (電話番号)	仙台市太白区中田4丁目12-7 (電 話) 022-741-3882
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8
訪問調査日	平成20年1月18日

## 【情報提供票より】(19年 12月 25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤 6人, 非常勤 6人, 兼務0人	常勤換算 8.3人

## (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	2階～階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000～22,000円	その他の経費(月額)	平均	円
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	260 円	おやつ	40 円
	または1日当たり 800 円			

## (4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院 浅沼歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

仙台市南部の中田・四郎丸地区(住宅地)に、社会福祉法人仙台ヴィーナス会が特養ホームなど13種の事業を展開する一角を占めているのがこのホーム「ゆきあい」である。開設は平成15年11月で4年余りであるが、最初から地域密着型サービスを基本理念に掲げ、管理者、職員が一体となりサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。また入居者の大半がホームと同一生活圏であることから人間関係が良く、ホーム内が明るく居心地よく暮らしているというアットホームな雰囲気をも出し出している(旧病院を改装したがハンディを感じさせない)。なお、職員を育てる取り組みが、日頃から学ぶことを推奨し全職員(非常勤を含め)スキルに合わせ内外部の研修に積極的に派遣し取り組んでいることを評価したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)
	要改善10項目中①運営理念②家庭的な生活環境づくり③ケアマネージメント④介護の基本の实行⑤日常生活行為の支援⑥医療健康支援⑦ホームと家族の交流⑧ホームと地域との交流、が改善されている。ただしエレベーターの設置については、継続して検討中とのことである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	意義の理解と活用について、管理者及び全職員が理解した上で、限られた評価期間だけでなく、毎月1回の職員会議で話し合い日々改善に取り組んでいて、今回の自己評価もその結果である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は平成18年7月に設置され2ヶ月に1回のペースで開催されている。主たる議題はグループホームに対する理解と協力、町内会との係わり、災害対策(防災訓練含む)等であるが外部評価結果についても報告し公表する等双方向的な運営をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が開設当初から結成されている。一時期停滞気味なこともあったが、現在は入居者大半が同一生活圏域ということもあり、家族のホームに対する理解と協力関係は極めて良好で、苦情処理第三者委員会を設置し周知徹底を図っているが1件の苦情も出ていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から法人及びホームの理念として掲げている地域密着型サービスを念頭に地域との連携強化に力を注いでいる。そのため町内会に加入し総会への出席、地域ぐるみの諸行事への参加、小中学校(両校ともすぐそば)の運動会や地域防災協力員との協力、協働など積極的な関わりをもつように取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年11月の設立当初から、地域に支えられ、地域に奉仕し、地域と共に生きるという法人の基本理念に加え「ゆっくり、たのしく、いっしょに」のホーム理念を掲げ、グループホーム生活圏域に住む方の入居を優先しサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は業務の一環であるとする意識が全職員に浸透し理解されている。毎月行われる職員会議で確認しているほか、新人オリエンテーション等においても具体的に伝える等、全職員で共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、総会をはじめ地域ぐるみで行われる芋煮会や神社のお祭りなどの諸行事、及び小中学校の運動会に積極的に参加し、交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己(外部)評価の意義については、運営者はもちろん管理者及び全職員が理解しており、限られた時期だけでなく毎月の会議の中で項目ごとに話し合い、具体的な改善計画をたて、日々改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を平成18年7月に設置し、2ヶ月に1回開催している。主なる議題はグループホームの理解と協力、自己(外部)評価の公表、町内会との関わり、防災訓練等で双方向的な運営がなされている。議事録も確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に必ず参加してもらうことにしている。また市(区)の担当者との間では、サービス面で理解できないこと(外泊時の居宅サービス利用など)について問い合わせる等、日々連携して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に入居者のくらしの状況や家族のこと等について話し合っているほか、最低でも月1回はホーム便りと共に預かり金の台帳や通帳のコピーを同封して、家族に確認してもらっている(全家族)。また、職員の異動等について家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は開設当初に結成されていて、年1回開かれる総会時はもちろん常日頃からホームに対する理解と協力が得られている。苦情などはこれまで1件も寄せられていないが、苦情処理第三者委員会(重要事項説明書に明記し、掲示している)を設置し周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を重視する立場で法人全体としてグループホーム内での異動は必要最少限に止めるよう配慮している。グループホーム「おちあい」との交換勤務を定期的に行っているが、このことによる入居者への影響は殆どない。また新人ではなく経験者を配置している。家族会にも報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃から学ぶことを推進することから、全職員のスキルに応じた外部研修への派遣を積極的に行っていて、仙台市主催の実践者研修、管理者研修、法人内の苑内外研修のほか自主研修を計画的に実施している。なお非常勤(6名)も対称にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が地域や県内の同業者との間に実践的な交流、連携を強める活動を行っている。県グループホーム連絡協議会主催の研修会やブロック活動への参加を通しての交流やネットワーク作りに参加し、全職員が平等に外部研修が受けられるような取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人がグループホームでの生活に馴染めるかどうかを把握するため、体験利用を行っている。入居前に本人に見学してもらい、既入居者と一緒に過ごす機会を数回設けるなどである。また併設のデイサービス利用者が入居する場合には、利用日に短時間グループホームで過ごしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に基づいたケアを実践していることで、日々入居者から学ぶことが多いことに気づく。(謙虚な心、感謝の気持ち、信頼関係など) これらを大切に本人の生活歴を聞き出し支えあう関係を築くべく取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の思いや希望を引き出す工夫のひとつとして、「名前の呼び方」をどうするか事前に本人の希望を尊重した呼び方で対応している。困難な方については、本人の性格や生活歴を考慮し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点に立ち、地域でその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ具体的介護計画(東京センター方式の混合)をスタッフ全員で作成している。本人はもちろん家族や他の関係者から出された意見も取り入れている。この内容をコピーして家族に渡し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間から1ヶ月或いは3ヶ月単位で見直しのほか、必要に応じて現状に即した計画の変更を行っている。居室担当制にし、ケアマネージャーだけでなく担当職員も直ちに情報キャッチが可能な体制ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や家族を伴った外出、外泊等の支援について、入居者が家族と過ごしたいと希望する場合には、食事を提供したり柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣同一地域の入居者が多いことから、かかりつけの医療機関に継続して関わっており、必要に応じては入居時にかかりつけ医と家族が面談を行い家族が気軽に相談できる関係作りができています。またグループホームとかかりつけ医との間も24時間随時連絡や相談ができる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期における介護指針やマニュアルを定めていて(医療加算あり)家族会に対し説明し確認している。その上で家族との個別の話し合いを行っている。この方針は医師も職員間でも共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個人の意思を尊重した呼び方、声がけに徹底している。人前で恥ずかしい思いをさせていない。無断で居室の出入りはしていない。排泄時や整容の乱れや汚れ等についても、さりげない支援をしている。個人情報記録類の管理は適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のリズムに配慮した柔軟な対応を行っている。全職員がその意識を理解した上で、その人らしい日々の暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、何が食べたいか入居者の希望を聞いてスタッフが作成している。米とぎや味見、後片付けなど入居者のできることは出来るだけ携わってもらうよう声がけし楽しい食事の雰囲気づくりをしている。職員も一緒に食事をしながらさりげない支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は制限がなく、入居者の希望によってはいつでも(夜間でも)入浴可能である。その種類もゆず湯、菖蒲湯、みかん湯と多種類で入居者に喜ばれているが、特に寒い時期、入浴を拒む方にはその方策についてみんなで知恵をしぼっているとのことである。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し役割活動への誘導を行っている中で、その成功例として家事仕事だけでなく、貼り絵、ぬり絵、習字等の趣味をグループでひとつのものを制作しようとのムードが高まり、いま豆まきの鬼面づくり(楽しい雰囲気)に取り組んでいることに拍手を送りたい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1～2日おき買い物に出掛ける支援をしている。これまで同一法人の施設に転居した友人への面会訪問や二階のベランダでの野菜作り、母体施設での行事参加、サークル活動への参加等、戸外に出る機会を多くするよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの意義について全職員が理解している。その上で玄関の施錠は夜間のみ実施している。また例外的に職員1人の時間帯で危険が予測される場合のみ(短時間)施錠することもある。このことについては家族に説明し了解が得られている。安全対策上入口に鈴がつけられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し防災訓練を定期的実施する。食料の備蓄3日分確保している。地域住民の参加、協力を得ているものの、夜間を想定しての訓練が未実施であることと、年2回以上に到達していないことから、十分とは言えない。	○	今後夜間を想定した訓練を行うにあたり、地域の防災協力を早急に設定する方向で、ホームとしては1月の運営推進会議で継続協議する予定としているので、その結果に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人内の管理栄養士によりカロリー計算がなされその指導を受けて献立表を作成している。栄養摂取量や水分量についてチェック表により状況を把握した上で支援している。(月に1回)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は旧病院を改造したもので1階がデイサービス2階がグループホームであり、ハード的には良いものとは言えない。この条件の中で玄関入口にガーデニングスペースを造作する等創意工夫が見られ、またテレビの音や照明の調節、全館床暖房、掛け軸や絵画の装飾、リビングには季節感ある創作物(貼り絵、ぬり絵)を掲示し、アットホームな居ごこちよさを醸し出す努力がうかがわれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを持ち込むように家族に働きかけ協力してもらっている。入居者の家族写真を貼ることで安心して落ち着いたくらしが出来るように、また共有スペースには入居者の昔の作品を飾るなどの工夫が凝らされている。		